検証方針(案)



① 課題の積極的な洗い出し

→ 課題には教訓があると考え、積極的な洗い出し、改善方法の検討

② 災害対応業務ごとに体系化し、今後の災害対応へ活用

- → 今後、活用しやすいよう、災害対応業務ごとに検証取りまとめ
- → 改善の方向性は、具体的かつ実現可能な方法(体制や施策)を明示

③ 県職員だけでなく、多様な関係者からの意見を反映

- → 検証委員はもとより、国・市町・民間団体等から幅広く意見聴取
- → 県が担った役割(担えなかった役割)、期待される役割を整理

(参考)検証作業工程について





作業の流れ

STEP(1)

県職員

アンケート

作業内容

●県職員全員を対象にアンケート調査

→ 約3,500人から回答(回収率92%)

- 【調査内容】・発災後約10日間の参集状況
 - 対応業務、課題、課題解消アイディア
 - ・対応業務におけるキーパーソン 等

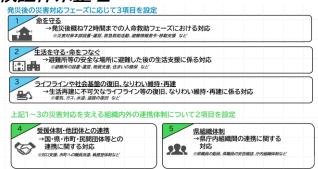
STEP2 検証体系の 整理等

- ●時系列観点「命を守る、命をつなぐ、インフラ復旧」に加え、 横ぐし観点「他団体との連携、県組織体制」による検証体系整理
- ●地域防災計画等での想定業務、調査により判明した業務から、 検証項目洗い出し → 例) 孤立集落、1.5次避難所運営等

STEP(3) 検証・分析 検証項目作成

- ●検証項目の深掘り(聞き取り調査)
- ●国・市町等から見た課題の洗い出し(アンケート調査)
- ●民間検証支援事業者の知見も活用した課題、改善の方向性整理
- ●各部による検証項目の修正・追記

検証体系整理



検証項目洗い出し



検証項目の深掘り

